Kusunosuke Kino - (no copy of Summary Sheet sent 8/19)

私は妻ツノと長男秀男 参男勉 四男昇司 長女
照子（アキコ） 次女節子 三女愛子（ア）の七人家族でベーンブリッジ
で農業をして居りました。
長女の照子は病弱だったので BUCKLEY（バックレー）, Wash.
の学校でお世話になって居りました。
戦争が初まった為め 立ちのきとなりました。
私は何の罪もないのに 千九百四十二年の二月十九日に
F.B.I. に依り 移民館につれて行かれ 三月
に モンタナ洲のミゾラに 四月には ニューメキシコの
サンタフィー 次（つい）で ニューメキシコの ローズバーク に移
されました。 一方残された家族は 四月一日にカリホルニア
洲のマンザナに 送り込まれました
千九百四十三年三月に 長女の病情が悪くなった
由の通知に接し 面会すべく手続き致し
ました処、 同行する兵隊の日当を払ふなら
面会に行けるとの事でした けれど 私には其の
様な お金は持ち合せず 残念でたまりま
せんでした

Kino, K

たらして居る内に 四月廿日に 学校の校長先
生から 照子の死去を知らせて参りました
早速 家族の居る アイダホ州 ミネドカのキャ
ンプで追悼会を持つべく家族と会合出
る様出願して 四月廿二日 実現出来ました

右 木野橋郎